

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会 (意見交換会)	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 山末	
日 時	平成29年12月1日(金曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 46 分
出席委員	◎小川 ○富谷 酒井 平本 齊藤 菱田 小島 馬場		
出席者	【コドモノミライプロジェクト@亀岡】 小畑代表、川上氏、中澤氏、三宅氏		
事務局	片岡事務局長、鈴木議事調査係長、山末		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 0名	議員1名(木曾)

会 議 の 概 要

1 開 会

<小川委員長>

(あいさつ)

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

(あいさつ)

2 出席者紹介

(各自、自己紹介)

3 意見交換

<小川委員長>

意見交換に入る前に、コドモノミライプロジェクト@亀岡の活動について、スライドで説明いただく。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

(スライドにより説明)

<菱田委員>

本日、午前中につつじヶ丘小学校の3年生約100人が、農業の勉強のために私の農園に来てくれた。先生が厳しいためか、子どもたちがずっと静かに聞いていたのだが、もっと子どもらしさがあってもよいのではないかと感じた。1時間ほど話していると、3年生なのに難しい質問をしてくれたり、大人びている部分も感じられた。先ほどの説明の中で、みらい農園の活動をされていると聞いた。子どもたちは自然に触れることや土いじりにとても興味があると思うが、その活動の中で感じたことは。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

参加された保護者のアンケートから、普段は見られない子どもの姿を見ることができた、という意見をいただいている。畑で活動することが目的でみらい農園に行くが、子どもの興味はそうでないことがある。花や虫が気になることもある。こちらはそれ

を否定せずに、子どもが興味を持ったことは受け止めたいと思っている。家が農家であるなど多少知識のある子どももいる。すると、そこで知識・力を発揮できる。皆の前で力を発揮することで、その子が輝くことにつながる。そういう姿を見せてもらっている。

<菱田委員>

J Aではあぐりキッズスクールという取り組みをしている。2～3歳から小学校高学年までの子どもとその親を120～130人ほど集め、種まきや収穫等を行っている。このような取り組みを続ける中で、親同士や子ども同士が関わったり、親が他の子どもの面倒を見たり、子どもが他の親に懐いたりすることもあると思う。その中で人間形成がされていくのではないかと考えるがどうか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

それはとても実感している。我が子に対してはどうしても期待してしまったり、何とかしなければという思いが出てしまうが、よその子どもには寛大に接することができるため、子どもが伸び伸びできるという意見を聞く。こどもみらい食堂は、小さな子どもが多いということもあるが、保護者に来てほしいという思いがある。親が気づける場面がたくさん出てくる。家庭の中であれば、我が子に対してつい言うてしまうことも、よその子どもを見ることにより、心が広くなることもある。こういうことをさせても大丈夫なのだという気づきにもなる。子どもだけでなく大人も気づける場になっていると感じている。

<平本委員>

参加者はどのようなきっかけで参加されるのか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

現在のところは口コミが多い。活動を始めた頃にギャラリーかめおかでPR活動をした時に声かけをして、それから続けて来てくれている人もいる。リピーターが多い。ギャラリーかめおかや子育て世代包括支援センターにもチラシを置いている。

<平本委員>

行政としてどのような貢献ができるのか。また、よく話題になることだが、活動をスタートした後、それを継続するための人材確保等に苦慮されるということをよく聞くが、現在のところはどうか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

今年は京都府の補助金をいただいて活動している。自立できれば一番よいが、活動が軌道に乗るまでは補助をいただければと思っている。多世代交流ができればという思いがある。おじいちゃんやおばあちゃんにも来ていただきたい。また、大学生が子育てに少しでも触れ合えるような場になればという思いもある。年齢に限りなく、誰でも来てもらえるようにという思いがあるが、現在のところは未就園児とその家族が多い。地域の大人にもっと来てほしいと思っているので、その働きかけを協力いただければありがたいと思う。会場はギャラリーの調理室を主に使っているが、飲食スペースの定員が24人までなので、テーブルを避けてレジャーシートを敷き、小さなテーブルを置いて座って食べている。参加したいと思っていた人全員に参加してほしいが、会場の収容人数や駐車場の問題を考えると人数制限をしなければならない状況なので、よい会場があればという思いがある。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 川上氏>

ギャラリーかめおか等で市民イベント等が開催される時に、ブースや活動発表の場を設けていただき、紹介させてほしいと思う。皆に知ってもらえることが必要だと思う。

<小川委員長>

他のNPO等の団体との連携はどうか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

連携をとっていないのが現状だが、私がこのプロジェクトを立ち上げたいと考えていた時に話を伺ったことはある。

<小川委員長>

地域の人々や民生委員との連携は。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

体験型こども食堂に関してはないが、夏に一度、篠町地区社会福祉協議会に協力いただき、東部文化センターで「こどもレストラン」を開催した。子どもたちがシェフになり、地域の人にお客さんとして来ていただくという活動だったのだが、その時には民生委員の力もお借りした。

<馬場委員>

子どもたちの自己肯定感を高めたり、気づきを得るために重要と考えていることは。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

自己肯定感を高めるために最も大事にしていることは、子どもがやってみたいことがあるならば、どんなことでもまずは受け止めることである。よほどのことがあるならば止めるが、まだ子どもだから危ないという気持ちが先に立ったり、忙しいこともあり、家庭の中では子どもの思いをなかなか受け止められないところを、体験型こども食堂に参加し、周りの子どもの様子を見ることにより、親の気づきにもなるのではないかと感じている。

<馬場委員>

2歳になったばかりの孫が私の家に来ると、そこら中のスイッチを押して回る。私たちはそれを微笑ましく見ているが、母親は止めようとする。そういうことを感じているのか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

大人の感覚でよかれという基準がある。当日は、参加される人に子どもの気持ちを受け入れていただくようお願いしている。

<齊藤委員>

説明の中で感動したことは、子どもに挑戦させるということである。家庭では、あれはだめ、これはだめ、というように否定から入る。また、子どもが他の大人と触れ合えない時代になっている。このような活動を広めていただきたい。今後、挑戦させたいことはあるか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

子どもにこうさせたいというよりも、子どもがやりたいことを肯定する立場でありたいと思っている。こども食堂に参加する親の中には、料理をさせたいという思いで来る人もいるかもしれないが、子どもは料理よりもキッズコーナーに興味があり、料理をしなかったりする。私たちは、料理をしようが、キッズコーナーで遊ぼうが、子どもがやりたいことをできればよいというスタンスである。

<齊藤委員>

最近の子どもを見ていると、とても心が寂しい。そちらに行かなくてもよいような子どもを育てるのが本来だと思う。行かなくてよいようにするには、どういう家庭環境にすればよいと考えるか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

気づきだと思う。常に大人が自分の価値観を時代の流れとともにアップデートしていけるようになればよいと考えるがなかなか難しい。体験型こども食堂の活動をしてい

るが、その他にも、大人の気づきの場として、「親カフェ」というものを開催していければと思っている。親は子どもの学力を上げることなどには時間やお金を費やすが、人間力を身につけることまではなかなか考えが及ばない。

<齊藤委員>

先日、日本電産の永守会長から高校生に向けた話を伺った。その中で「IQよりもEQだ。」と何度も言われていた。EQの高い子どもを育てることで、将来の日本を背負っていく人材になるのではないかとと思っている。

<小川委員長>

議員に対する質問や、活動についての思いなどがあれば。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 三宅氏>

活動に賛同して手伝っている。夏には川遊びをしたり、この前は雨で中止になったのだが、飯ごう炊さんの企画もあった。現在のところは参加費を少しいただいているが、本当は参加費なしでやりたい。無料で参加してもらえればという思いはある。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

参加費は500円いただいている。4月ごろにボランティアで参加いただいた時は、畑と調理に分かれて活動するため、三宅さんには畑に行ってもらい、お子さんには調理に行ってもらった。心配されていたが、子どもたちは親と離れても頼もしく活躍してくれていた。そういう姿に気づくことができる。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 中澤氏>

会場がほしい。参加費も無料にしたいが難しい部分がある。参加費がもう少し下がればうれしい。

<平本委員>

場所の確保に苦慮される原因は、亀岡会館が使えないこともあり、いろいろな文化サークルで場所の確保が難しいと聞いているが、その辺りが影響しているのか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

理想の場所を見つけるのが難しい。畑での活動をしているため、畑から徒歩で行けることや、参加者の駐車場があることなどの条件がある。東部文化センターは調理室と飲食スペースが離れている。調理室の隣に和室があるのが理想である。他の地域ではそのような施設もあるということを知ったことがある。ガレリアかめおかは広いので、外に出ると追いかけるのが大変であり、どこにいったのかわからなくなる心配もある。

<平本委員>

篠町の八幡会館には座敷があり、近くにキッチンもあるため、イメージに近いのではないかと感じた。場所を紹介してもらうために自治会館等に声をかけたことはあるか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

現在のところはない。

<小川委員長>

農園の場所はどのあたりか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

体験型子ども食堂の開催日に利用しているのは、ガレリアかめおかから曾我谷川側に沿って南に向かったところである。大人なら10分、子どもと歩くと20分ほどの距離である。もう1カ所は、千代川インター付近にある貸し農園を利用している。

<富谷副委員長>

亀岡市内に子ども食堂は4カ所あるが、体験型子ども食堂は他にない。よい取り組みだと思う。活動の場を広げることは可能なのか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

いろいろな場所に行ったり開催日を増やせばよいが、ボランティアで来ていただいている人にも小さな子どもがいて、仕事もされているため、難しいと考える。

<酒井委員>

10年ほど前であれば、子どもには学校と家庭以外の人とのつながりが必要だということや、子どもの居場所をつくりたいと言ってもなかなか理解が得られなかった。しかし、子どもの貧困率の数字により、「子ども食堂」というキーワードが注目されているので、ある意味チャンスなのではないかと感じている。「子どもの貧困」や「子ども食堂」というキーワードで関心を向けられる人はそれぞれの立場でいろいろなことを言われると思うが、活動されている人の思いを大事にし、楽しみながら無理なく続けていただければと思う。無料で開催することについて、気持ちはよくわかるが、慎重に考えなければならないと思う。私の経験上、無料にしてよくなかったことの方が多かった。全員が対象の場合は無料にしておかなければ参加したい子どもが参加できなかったりするが、親が選んで参加される場合は、無料でなくても大丈夫なことが多く、無料にした途端、いろいろな問題が発生したことがあるので、検討する際はいろいろな事例を見た方がよいと思う。

<小川委員長>

無料にした際にどのような問題が起こるのか。

<酒井委員>

過去の経験から、無料にするとドタキャンが頻発したり、参加者の意識が下がってしまうということがあった。他のところでも、無料にした途端に大変なことになったということを聞いている。

<平本委員>

今後の人材確保の考えは。また、多世代交流のために行政としてできることは。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

ボランティアの人にはお世話になっているが、運営側と参加者側が隔てなく皆でつくり上げることが理想である。慣れてきた人には自主的に動いていただいているので助かっている。それとは別に、大人の手がたくさんあった方がよいとも考えている。そのため、京都学園大学の学生にも来てもらえたらと思い、何度も連絡を取ったが話が進まなかった。ガレリアの3階で行っているボランティアのマッチングに登録しようかと思っている。大学生や高齢の人にも参加していただけるのが理想である。

<菱田委員>

理想的な活動だと思う。行政がこれに入ってしまうと、スタッフと子どもに分かれてしまう。しかし、こちらの取り組みは親と一緒に子どもが育つ、子どもと一緒に親が育つというところを感じた。確かにハード面等の課題はあるが、無理して広げずに口コミで取り組みを続けてほしい。口コミによってできたつながりは簡単には壊れない。

<馬場委員>

人数の規模によって取り組み方が違ってくる。あまり大規模に食事の提供をしようとする、それ自体が労働のようになってしまうので、適正な人数を把握して活動されていると感じた。全市的にこのような団体がいろいろな所にできるのが一番安心だが、その輪を広げるためにどうすればよいかということや、こういう場を設けてほしいとか、こういう場が必要だというような率直な意見があればいただきたい。

<小島委員>

思いに反する人が来たことはあるのか。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

60歳ぐらいの男性に参加していただいたことがある。その人の思いとしては、戦後の配給で育った世代なので、御恩返しがしたいという温かい思いで参加いただいたのだが、小さな子ども連れの参加者が多く、あまりなじめなかった。その人の思いはともうれしかったので、それをどうクリアするのが難しいと感じた。

<齊藤委員>

曾我部町で実施している未来づくりサポーター事業では、京都学園大学のバスケットボール部の生徒にボランティアをお願いしている。学生の試合日程に合わせなければならぬということも出てくるが、学生ボランティア協会に相談してみるとよいと思う。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 小畑代表>

教員を目指す学生にも来てほしい。学校現場を見るのは大事だが、学校現場以外のところも見てほしいと思っている。

<齊藤委員>

京都学園大学の学生ボランティアも教員を目指している生徒たちである。学生ボランティアにはそういう生徒たちが多と思う。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 川上氏>

亀岡市でフードドライブの取り組み等をしていただけると活動がしやすくなると思う。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 中澤氏>

子どもがやりたいことをさせるのが楽しい。危険な時だけは叱るが、楽しく参加している。ボランティアの人がもう少しいれば助かる。また、キッズスペースで面倒を見てくれる人がいれば託児所に預ける必要もなくなる。

<コドモノミライプロジェクト@亀岡 三宅氏>

やっている側が楽しいのが一番。継続して来ていただけるのは嬉しいが、定員がすぐにいっぱいになるので新規の人に来てもらえないことが課題だと思う。

<小川委員長>

有意義な意見交換となった。無理のない程度に活動を継続していただきたい。

4 閉会

<富谷副委員長>

(あいさつ)

散会 ～14:46